

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-263	高等学校	家庭	家庭基礎	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
2 東書	家基701	家庭基礎 自立・共生・創造		

## 1. 編修の基本方針

本書は、これからの時代を生きる生徒が、現在そして生涯にわたって、希望を持ち、たくましく、よりよく生きる力を身に付けることを目指して、編修しました。

小学校家庭、中学校技術・家庭(家庭分野)で身に付けた生活の自立を基盤とし、さらなる自立の力を身に付けたり、いろいろな人々との共生に目を向けたりする中から、新しい生活の創造を目指すといった、高等学校ならではの家庭科を学べるようにしています。

上記の趣旨に基づき、次のような方針で編修しました。

- ①自分や家族の日常の生活に関心を持ち、家庭生活の現実認識をして見直すところから始められるように、各章の導入は、自分の生活を見直すところから入るようにしています。また、実践的な活動を促すために、各見開きに「TRY」を設け、調べたり、学習を深めたり、実践に結び付けたりしています。
- ②生活の根底にある原理・原則について、なぜそうなっているのか、なぜそうするのか、社会科学的・自然科学的に追求して理解することを重視し、本文記述を工夫すると同時に、大きい判型を効果的に使って、記述を補う資料を充実しました。本文中の重要語句については、青色の太字で示し、基礎・基本の徹底を図るようにしています。
- ③学習して理解したことを生活に生かしたり、生活課題を解決したりするために、実際の生活の場で実践できる技術・技能を身に付けるようにしています。それらの技術・技能が、生活の自立や生涯にわたる健康な生活の基盤となることに気付き、身に付けることの重要性を理解できるような記述をしています。また、調理実習や被服製作では、生徒の実態に配慮し、「小学校、中学校での学習を振り返ろう」という資料ページを設け、技術・技能の確実な定着を図るようにしています。
- ④自分の生活が家族や地域の人々をはじめ、いろいろな人々とのつながりの中で成り立っていることに目を向け、お互いを尊重する生活が考えられるように配慮しています。また、「家族・家庭」、「保育」、「高齢期」の章の後に「共生」の章を配し、全ての人々がよりよく生きられるような新しい共生の形についても目を向けるようにしています。さまざまな人々と協働し、お互いの協力や責任の分担が重要であることについても、家族や保育の内容など、随所で取り上げています。
- ⑤これからの時代を生きるうえで、環境との共生も重要な課題であることをふまえ、持続可能な社会を目指して一人一人が生活の仕方を考え、実践できるようにしています。衣食住の各章の最後の節に、「持続可能な社会を目指す」内容を位置付け、衣食住の生活と関連する内容をまとめて扱うと同時に、消費者として環境に配慮した行動をとることの重要性も扱っています。

⑥自立と共生をふまえたうえで、総合的に判断し、主体的な意思決定を行って、新しい生活を創造していくことを目指しています。「生活設計」を1章と11章に分けて設置し、1章では生涯を見通して自分らしい生き方を考え、11章ではそれまでの学習をふまえて、今後の生活に生かせるような構成にしています。また、人生を通してキャリアを積みあげていくことについて考えたり、将来の職業生活に結び付けたりできるように、各章末には「私のキャリア」を設けました。

⑦生徒一人一人が学習したことを生活の中で実践し、より充実した生活を送ることができるように、「ホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動」の内容を充実しています。冒頭の6ページ分を使って、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動について目的や方法、具体的なテーマの見つけ方を図解で示して理解を促すとともに、コンクールで受賞した実践例を掲載して生徒の意欲を高めるようにしています。各章末には、章の内容に関連するテーマを挙げ、学習が生徒の行動変容に結び付くような取り組みを促すページを設けています。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
家庭科の学び方	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭科での学習が持続可能な社会をつくることにつながっていくことがイメージできるように関連する多くの写真を掲載しています(第4号)。</li> </ul>	見返し1～ 見返し2ページ
小学校、中学校の学習とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>義務教育の学習を基に、高校ではさらに幅広く学習することを示すために、学習内容の系統表を入れていきます(第1号)。</li> </ul>	3ページ
生活に生かそう	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを主体的に生活に生かすホームプロジェクト・学校家庭クラブ活動をより意欲を持って行えるように、各地の実践事例を紹介しています(第2号)。</li> </ul>	4～9ページ
第1章 生涯を見通す	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の人生や家庭生活と職業の関係を考え、将来の進路に結びつくように、家庭科の学習を俯瞰しながら将来について考えられるページを設けています(第2号)。</li> <li>かけがえのない存在としての自分を大事にすると同時に、自立とはどういうことかを考え、目標を持って生きることを促すようにしています(第2号)。</li> </ul>	12～13ページ  18～21ページ
第2章 人生をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>男女共同参画社会を目指し、男女が協力して家庭生活を主体的に営むことができることを重視しています(第3号)。</li> <li>学習内容と自分の生き方や職業との関係を考え、将来の進路に結び付くように、「私のキャリア」のページを設けています(第2号)。</li> </ul>	22～25ページ  37ページ
第3章 子どもと共に育つ	<ul style="list-style-type: none"> <li>生まれてくる命の尊さを感じ、その命を見守り、育む人たちがいることに気づくページを設けています(第4号)。</li> <li>学習内容と自分の生き方や職業との関係を考え、将来の進路に結び付くように、「私のキャリア」のページを設けています(第2号)。</li> </ul>	38～39ページ  63ページ

第4章 超高齢社会を共に生きる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢社会に生きていくうえで、高齢者を支えていくために具体例を挙げて取り組みやすいように示しています(第3号)。</li> <li>・学習内容と自分の生き方や職業との関係を考え、将来の進路に結び付くように、「私のキャリア」のページを設けています(第2号)。</li> </ul>	72～73 ページ  77 ページ
第5章 共に生き、共に支える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様性(ダイバーシティ)の尊重される社会を目指し、バリアフリーの取り組みやユニバーサルデザインの考え方を紹介しています(第1号)。</li> <li>・地域の災害時に家族、地域社会の一員として適切に行動できるように、自然災害と自助・共助・公助について考えることのできるページを設けています(第3号)。</li> </ul>	82～83 ページ  84～85 ページ
第6章 食生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の自立を目指し、技術・技能の確実な定着を図るために、小学校、中学校の調理に関する学習を振り返るページを設けています(第1号)。</li> <li>・食生活に関わる伝統的な生活文化について、多くの写真とともに扱っています(第5号)。</li> <li>・学習内容と自分の生き方や職業との関係を考え、将来の進路に結び付くように、「私のキャリア」のページを設けています(第2号)。</li> </ul>	114～115 ページ  126～127 ページ  133 ページ
第7章 衣生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衣生活に関わる伝統的な生活文化について、多くの写真を用いて扱っています(第5号)。</li> <li>・生活の自立を目指し、技術・技能の確実な定着を図るために、小学校、中学校での衣生活に関する学習を振り返るページを設けています(第1号)。</li> <li>・学習内容と自分の生き方や職業との関係を考え、将来の進路に結び付くように、「私のキャリア」のページを設けています(第2号)。</li> </ul>	154～155 ページ  157 ページ  163 ページ
第8章 住生活をつくる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住生活に関わる伝統的な生活文化について、多くの写真を用いて扱っています(第5号)。</li> <li>・学習内容と自分の生き方や職業との関係を考え、将来の進路に結び付くように、「私のキャリア」のページを設けています(第2号)。</li> </ul>	174～175 ページ  181 ページ
第9章 経済生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済的な自立やさまざまな働き方など、生涯を見通した働き方を考えるページを設けています(第2号)。</li> </ul>	192～197 ページ
第10章 持続可能な生活を営む	<ul style="list-style-type: none"> <li>・循環型社会形成のために、生徒自身が地球市民の一員であることを自覚し、Think Globally, Act Locallyに則った行動を促</li> </ul>	200～205 ページ

	<p>しています。(第4号)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容と自分の生き方や職業との関係を考え、将来の進路に結び付くように、「私のキャリア」のページを設けています(第2号)。</li> </ul>	207 ページ
第11章 これからの生活を創造する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科での学習をふまえ、これから自立しながら共生していくために、マネジメントの視点から考えられるように工夫しています(第3号)。</li> </ul>	210～211 ページ
食品成分表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・我が国伝統の食材であるご飯、みそ、しょうゆなどは写真で紹介しています(第5号)。</li> </ul>	214～221 ページ
四季を楽しむ和食すごろく	<ul style="list-style-type: none"> <li>・季節感を大切にする我が国伝統の年中行事を紹介しています。あわせて、本来の旬を知ることができるようなイラストも取り上げています(第5号)。</li> </ul>	見返し5～ 見返し6 ページ

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・人との関わり方を学んでいるいろいろな人々と共生しながら暮らせるように、また、物との関わり方を知って自立に必要な力を身に付け、さらに環境との関わり方を考えて実践することを通して、持続可能な社会の一員としての責任が果たせるようになることを目指しています。そういった多面的な視点から総合して考え、判断し、自分の生活を創造していく力を付けさせたいと考え、見返し1～見返し2ページに写真を中心とした高校生の感性に訴える紙面を設けています。
- ・情報教育やICT活用への対応として、ICT機器の活用を促す活動を配置したり、内容に関わる無料のデジタルコンテンツを豊富に用意したりしました。紙面にはコンテンツへの二次元コードやURLを記載しています。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-263	高等学校	家庭	家庭基礎	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
2 東書	家基701	家庭基礎 自立・共生・創造		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ①本書では、人や物や環境との関わりを学ぶことを通して、生涯にわたって生きていく力の基礎を身に付けられるように配慮しています。生活に係る見方・考え方を働かせて、人の命や自分の生活、また資源や環境が持続可能となるような社会を目指すということを、SDGsの理念とともに最初の見開きで示しています。
- ②本書の各章は、次のように構成されています。1章では自分らしい人生をつくるとはどういうことかを考えるところから学習を始め、2章から5章までで家族や地域の人、子どもや高齢者との共生について学び、6章から8章では毎日の生活を支える衣食住の技能・技術について学び、9章では自分たちを取り巻く消費生活や経済の仕組みを、10章では持続可能な生活について学びます。そして11章は、1章から10章までの学習を総合して、今後の自分の生活を創造していく視点から構成しています。
- ③学習したことを自分の生活に戻すために、ホームプロジェクト、学校家庭クラブ活動を重視しています。自分の生活の中から課題を見つけ、家庭科の学習を生かして解決方法を探るという問題解決のプロセスを身に付け、繰り返し取り組むことでよりよい生活を創造することを目指しています。生徒にとっては、課題を見つけるところまでが難しいという実態に配慮し、4～5ページと各章末のページとを使って、課題発見のヒントを具体的に扱っています。また、学習したことをより積極的に生活に生かせるように、6～9ページやそれぞれの内容において多くの実践例を紹介しています。
- ④自分の人生を創造するうえで、目標を持って、キャリアを積み重ねることの重要性に気付かせるため、生活設計の内容を1章と11章に分け、家庭科の学習の始めと終わりに学べるようにしています。また、職業を意識して、進路を考えることができるように、各章末にその章の内容と関連する職業に就いている人の生き方を紹介しています。
- ⑤全世界的な取り組みが求められる環境問題に対応するため、消費者としてのあり方を9章で示すとともに、持続可能な生活を営むという視点で10章を独立させました。また、衣食住の各章でも、環境の視点からそれぞれの内容と関連する課題について扱っています。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
家庭科の学び方	A～D	見返し1～ 見返し2ページ	1 (計1)
生活に生かそう 自分の意見を文章にまとめよう	D	4～9ページ 10～11ページ	2 (計2)
第1章 生涯を見通す			
1 人生を展望する	A(1)	12～17ページ	1
2 目標を持って生きる	A(1)	18～21ページ	1 (計2)
第2章 人生をつくる			
1 人生をつくる	A(2)	22～25ページ	2
2 家族・家庭を見つめる	A(2)	26～31ページ	2
3 これからの家庭生活と社会	A(2)	32～35ページ	1
ホームプロジェクト	D	36ページ	
私のキャリア	A(1)	37ページ	
			(計5)
第3章 子どもと共に育つ			
1 命を育む	A(3)	38～40ページ	1
2 子どもの育つ力を知る	A(3)	41～47ページ	1
3 子どもと関わる	A(3)	48～51ページ	3
4 子どもとの触れ合いから学ぶ	A(3)	52～55ページ	2
5 これからの保育環境	A(3)	56～61ページ	2
ホームプロジェクト	D	62ページ	
私のキャリア	A(1)	63ページ	
			(計9)
第4章 超高齢社会を共に生きる			
1 超高齢・大衆長寿社会の到来	A(4)	64～66ページ	1
2 高齢者の心身の特徴	A(4)	67～71ページ	2
3 これからの超高齢社会	A(4)	72～75ページ	2
ホームプロジェクト	D	76ページ	

私のキャリア	A(1)	77ページ	(計5)
第5章 共に生き, 共に支える			
1 私たちの生活と福祉	A(5)	78～79ページ	1
2 社会保障の考え方	A(5)	80～81ページ	1
3 共に生きる	A(5)	82～85ページ	1
			(計3)
第6章 食生活をつくる			
1 食生活の課題について考える	B(1)	86～89ページ	1
2 食事と栄養・食品	B(1)	90～101ページ	4
3 食生活の選択と安全	B(1)	102～105ページ	2
4 生涯の健康を見通した食事計画	B(1)	106～111ページ	2
5 調理の基礎	B(1)	112～125ページ	6
6 食生活の文化と知恵	B(1)	126～127ページ	1
7 これからの食生活	B(1), C(3)	128～131ページ	1
ホームプロジェクト	D	132ページ	
私のキャリア	A(1)	133ページ	
			(計17)
第7章 衣生活をつくる			
1 被服の役割を考える	B(2)	134～139ページ	2
2 被服を入手する	B(2)	140～147ページ	3
3 被服を管理する	B(2)	148～153ページ	3
4 衣生活の文化と知恵	B(2)	154～157ページ	1
5 これからの衣生活	B(2), C(3)	158～161ページ	1
ホームプロジェクト	D	162ページ	
私のキャリア	A(1)	163ページ	
			(計10)
第8章 住生活をつくる			
1 住生活の変遷と住居の機能	B(3)	164～169ページ	2
2 安全で快適な住生活の計画	B(3)	170～173ページ	1
3 住生活の文化と知恵	B(3)	174～175ページ	1
4 これからの住生活	B(3), C(3)	176～179ページ	1

ホームプロジェクト	D	180ページ	
私のキャリア	A (1)	181ページ	
衣食住とライフステージの関わりを考えよう	A (1)	182～183ページ	(計 5)
第9章 経済生活を営む			
1 情報の収集・比較と意思決定	C (2)	184～186ページ	1
2 購入・支払いのルールと方法	C (2)	187～189ページ	1
3 消費者の権利と責任	C (2)	190～191ページ	2
4 生涯の経済生活を見通す	C (2)	192～197ページ	2
5 これからの経済生活	C (2), C (3)	198～199ページ	2
			(計 8)
第10章 持続可能な生活を営む			
1 持続可能な社会を目指して	C (3)	200～203ページ	2
ホームプロジェクト	D	206ページ	
私のキャリア	A (1)	207ページ	
			(計 2)
第11章 これからの生活を創造する			
1 生活をデザインする	A (1)	208～213ページ	1
			(計 1)
食品成分表, アミノ酸成分表	B (1)	214～222ページ	
四季を楽しむ和食すごろく	B (1)	見返し 5 ～ 見返し 6 ページ	
		<b>計</b>	<b>70</b>

\* 1 各章末の「ホームプロジェクト」の配当時数は巻頭の「生活に生かそう」, 「私のキャリア」, 「衣食住とライフステージの関わりを考えよう」の配当時数は第1章に含まれます。

\* 2 巻末資料の「食品成分表, アミノ酸成分表」, 「四季を楽しむ和食すごろく」の配当時数は第6章, の配当時数は第6, 第7, 第8章に含まれます。